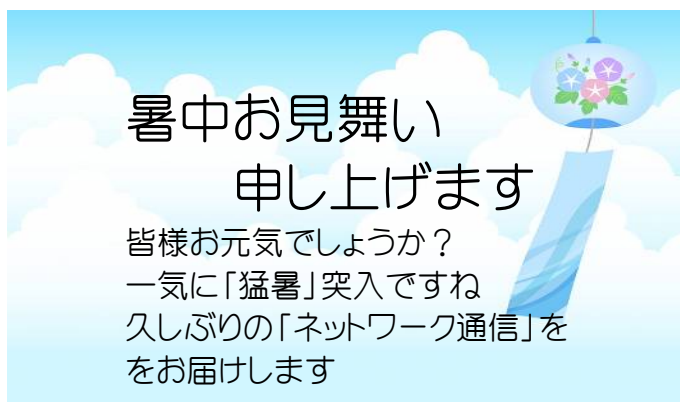


アスベスト被害を伝えるネットワーク

…絆から縁へ (vol,4) 平成 31 年 7 月 30 日



クボタショックから14年 尼崎集会

6月22日(土)、阪神尼崎駅近くの「中小企業センター」において「クボタショックから14年 尼崎集会」が行われました。今年も200名を超える参加者でアスベスト被害の悲惨な実態と将来の被害防止への認識と誓いを新たにしました。



患者の笑顔は皆にとっても「宝物」



患者の闘病報告



稲村和美尼崎市長の挨拶



(左)今年も「空をゆくツバメ」を
皆で合唱しました。



作詞した故八木龍八さん聞いていましたか？
他の方々も空や、私たちの近辺で聞いていました
ね？

2005年6月末の「クボタショック」から14年を経てもなお、被害が発生し続けています。この14年間でクボタが救済金を支払った住民(元住民も含)は355名です。

集会の最後に、以下の「尼崎宣言案」が読み上げられて満場一致で採択されました。

尼崎集会では今年もまたたくさんの方の懐かしい顔が拝見できました。15年前から共有してきたことを語れる仲間です。「あの悲劇があったから、この出会いがある」と共

有できる友です。辛さ、苦しみ、哀しみは他の人と分け合うことはできませんがその心に寄り添うことはできます。そしてささやかな喜びは皆で分かち合えます。「また来年もね」といって笑顔で別れた友…来年も元気で再開できる喜びを分かち合いましょう。

あなた達の涙と笑顔があれば、アスベスト被害は人々の記憶から忘れ去られることはありません。

アスベスト被害根絶尼崎宣言 2019 (案)

2005年6月29日、クボタは79名に及ぶ自社・関連企業アスベスト被害の死亡労働者数を明らかにした。そして翌30日には、今は亡き前田恵子さん、土井雅子さん、早川義一さんが、周辺住民被害者としての存在を世間に明らかにし、クボタの「見舞金」を受け取った。

それから14年目を迎える集会である。クボタへの救済金請求者数は355名に達している。患者・家族の苦痛はもちろんのこと、クボタ旧神崎工場周辺に居住し、また勤務していた人々にとって、今もなお重苦しい不安の日々が続いている。

一方でこのクボタショックによって、隠されていた日本のアスベスト被害の実態が、一気に明らかになっていった。全国にアスベスト被害の存在を知らしめ、関西中心から、関東にまで石綿検診実施自治体も広がった。14年目を迎えた患者と家族の会の支部も北海道から南九州にまで拡がり、患者・家族・遺族の心のよりどころとしてのみならず、厚生労働省や環境省にとっても決して無視できない存在となった。

泉南の国賠裁判では、2014年10月最高裁で国に被災者への直接責任ありとする大きな勝利をおさめ、この結果を踏まえて、いま国に対する国賠訴訟が全国各地で進められている。

石綿健康被害救済法の見直しは残念ながら、先日の集団省庁交渉まで成果の得られないままである。環境省の役人が、尼崎の患者・家族・遺族を訪ね、介護・通院費等の実態調査を進めることはあったが、その結果を、私たちの固い結束によって、確実な制度改善につなげていくことが問われている。適用される制度のちがいで、疾病の範囲から補償内容まで被害者間に大きな格差を生じている現実を許すことはできない。

建物の解体によるアスベストの飛散問題が、近くは西宮地域住民の裁判や堺市民の運動、マスコミ報道などによって、ようやく理解されはじめてきた。建物の事前調査は本当に信頼できるのか、石綿除去工事完了後の取りのこし点検は確かか、解体される建物の危険性について周辺住民との情報共有はされているのか、何の公的資格もない解体業者がスレートの外壁をバリバリ壊しても罪に問われないという現実を、何としても阻止しなければならい。これからの石綿被害を予防するために、建物内やその解体時の石綿飛散防止対策の徹底した強化と法律の整備は、私たちに課された大きな仕事だ。

私たち本日の集会参加者一同は、国と企業によるアスベスト問題の幕引きを決して許さない。すべてのアスベスト被害の救済と、アスベスト被害の完全な根絶に向けてアジア、そして全世界のなかまとともに、全力をあげて活動をしていくことを宣言する。

2019年6月22日

“クボタショック”から14年

アスベスト被害の救済と根絶をめざす尼崎集会 参加者一同

~~~~~

## ジャーナリストの井部正之氏が守口市旧庁舎解体の記事を書きました

7月20日(土)19時から守口市役所で住民説明会があったのですが、私は都合で参加できませんでした。漏れ聞こえた情報では「紛糾して前に進めなかった」ようでした。しかし昨日井部さんに聞いた話では「良い説明会」だったと。

たしかに、多くの意見が出たのでこの状態で工事を再開には至らなかったそうです。

しかし、初参加の住民の間から先日(7月12日)私が市役所側に指摘した内容と同じ意見が出たそうです。「複数の住民から意見が出たことは意味がある」と井部さんは言っていました。それにしても…解体業者のレベルの低さにはいつもながら呆れてしまいます。これは発注者である守口市も一緒ですが。でもこれは氷山の一角。日本中いたるところで、住民は危険に晒されています

**<大阪・守口市アスベスト問題>市が違法作業4か月後の測定で「問題なし」と主張 批判相次ぎ謝罪**

ヤフーニュース <https://headlines.yahoo.co.jp/hl...>

アジアプレス・ネットワーク <http://www.asiapress.org/apn/2019/07/japan/asbesto-4/>

**<大阪・守口市アスベスト問題>市が違法作業4か月後の測定で「問題なし」と主張 批判相次ぎ謝罪**

大阪府守口市は7月20日、旧庁舎解体のアスベスト対策に関連し説明会を開催。今回は“非市民”の排除はしなかったが、対応に問題が多く批判が相次いだ。写真は市がレベル3除去を知りつつ公表しなかった1月18日の説明会のようす(井部正之撮影)



## 鳩が飛んだ日

「ハト婆さん」体験談

仁徳御陵を空の上から見てきました。ヘリコプターから見ると写真通りでした！

故藤本義一さんのクスノキを見に公園に行くと、偶然にも乗る機会に恵まれたのです。ちょっとお高い贅沢ですが、良い巡り合わせだと思って乗りました。いまでも興奮が冷めやらない状態です。体重の関係でパイロット、私、娘の3人でした。自分の住んでいる街が箱庭のように見えて、御陵さんは写真で観るそのまま！…とても美しい光景です。

今回はプレイベントですが、いずれ観光の目玉になるかもしれません。6分間の空の旅は快適でした！(^^)！



以下は毎日新聞記事から転載(古墳の写真は転載無し)

世界文化遺産に登録された百舌鳥(もず)古墳群(大阪府堺市)をヘリから眺める遊覧飛行が13～15日、同市堺区匠町の「海とのふれあい広場」発着で実施される。一般社団法人S. I. Net会(本部・東京)が市の協力を得て主催する。

発着場所と古墳群の距離は約7キロで、標準飛行時間は6分。古墳群付近では高度450メートルほどのところを飛び、巨大な前方後円墳の全景を見ることができる。10日には永藤英機市長や報道陣が試乗した。永藤市長は「密集市街地に今も残る古墳群が人類の宝だと実感した」と話し、ヘリのほか、気球や水上飛行機など、上空からのアクセス拡充に意欲を示した。2019年7月10日、大阪府堺市、加戸靖史撮影)

## 「第59回農村医学夏季大学講座」に参加して

古川和子



今年も佐久総合病院に行ってきました。「JA 長野厚生連」などの主催で毎年開催される大きなイベントです。二日間にわたって開催されますが、初日は「若月賞授賞式」です。今年の受賞者は、水俣病に貢献した藤野紘医師と震災後の病院復興に尽力した陸前高田市の石木幹人医師です。

今年の基調講演は「福祉ジャーナリスト(元 NHK キャスター)町永俊雄氏」でした。タイトルは『認知症』の社会はどこまで来たのか～メディアでどう伝え、社会はどう受け止めたのか～です。素晴らしい講演でした。聞き入りながら必死でメモを取りました。徐々に皆さまにもお伝えしたいと思いますが、ここでは一点だけ紹介します。『認知症革命』…障害は社会の側にある。認知症は人生の終わりではない。認知症は誰もがかかわり、誰にもかかわる。予防と共生の両輪が必要。喪失していく人は、寄り添う人に何かを与えている。」

感動でした。私は最近、重度の認知症の親友の姿を見ていたから非常に身近な問題として受け止められました。かつて家族は親子だけでなく、曾祖父母や孫ひ孫までもが一緒に生活する「大家族」でした。しかし近年はいわゆる「核家族」化して、個々に生活をなしています。ともすればその家族形態が問題視されますが、社会全体で受け止める課題です。

ミャンマー民主化運動の女性医師マ・ティータ氏がインタビューで言いました。「民族の誇りではなくて、市民の誇りを」と。民族は卵の黄身であり、市民は白身だといわれました。この考えは、いま私たちが繰り広げているネットワークだと思いました。それぞれの黄身を大事にしながら、地域や仲間と繰り広げてゆく「白身」の繋がりですね。

佐久総合病院とのご縁を頂いてから4年。毎年素晴らしい講師を迎えての講座には「新たな視点」を見出したような感動を受けます。(写真は開会の挨拶をする伊澤敏統括院長)

「ハト婆さん」の体験談、素敵でしたね。彼女は時々、故藤本義一氏が建てた「浜風の家」から移植された「クスノキ」の成長を見に行っています。その公園内でイベントに遭遇したのです。これもまた何かのご縁ですね。同イベントでは近隣住民から騒音の苦情もあり課題も多々ありますが、今後が楽しみです。

お陰様でネットワーク賛同者も増えています。「ボランティア3原則」(自主的、他者に強要しなく、足を引っ張らない)が好評です。

最後になりましたが、皆さまのご健康をお祈りいたします。

アスベスト被害を伝えるネットワーク

<https://amiantnet.wixsite.com/mysite> (見えない恐怖アスベスト)